

イレナ・センドレル没後 10 周年記念シンポジウム

「イレナ・センドレルに会いたい」



Irena Sendler 1910-2008

写真提供：Andrzej Wolf

2018年3月15日(木) 18:30 - 21:00 (受付開始 18:00) 入場無料

青山学院アスタジオ (東京都渋谷区神宮前5丁目47-11) 地下1階

主催：ポーランド広報文化センター

共催：NPO 法人フォーラム・ポーランド組織委員会

後援：駐日ポーランド共和国大使館

NPO 法人ホロコースト教育資料センター



駐日ポーランド共和国大使館

プログラム

18:30 開会

18:45 - 19:25 短篇映画「イレナ・センドレローヴァ物語」上映と説明

(2016年/アンジェイ・ウォルフ監督。27分。日本語字幕付き)

19:25 - 20:40 パネルディスカッション -

平井 美帆 『イレーナ・センドラー ホロコーストの子ども達の母』著者

吉岡 潤 津田塾大学教授 (ポーランド現代史)

関口 時正 NPO フォーラム・ポーランド組織委員会代表

20:40 - 21:00 意見交換

21:00 閉会

お申込み：

お名前、所属、ご連絡先をお書き添えの上、sendler@forumpoland.org

まで、メールにてお申込みください。

会場手配・資料準備の都合上、受付は3月12日（月）までとさせていただきます。

皆様のご参加をお待ちしております。

Irena Sendler (1910-2008)

イレナ・センドレル（またセンドレル夫人の意味で「センドレローヴァ」とも言います）は、第二次世界大戦中ナチス・ドイツ占領下（1939-1945）のワルシャワ・ゲットーから約2500人のユダヤ人の子どもを、同僚たちと力を合わせ、救済したと言われます。

「肩と肩を組み、命の危険を冒した——助けを必要としている弱者を救うために」

2017年6月、ポーランド共和国下院は、2018年を「イレナ・センドレル記念年」とする決議を行いました。「一人の人間を救済するために、全てを捧げた女性を讃えて」

決議文の中では、イレナ・センドレルがワルシャワ・ゲットーから約2500人のユダヤ人の子どもを救済したと述べられています。決議の理由付けとなる文章の中では、彼女の同僚たちの役割にも注目しています——「彼らは、肩と肩を組み、命の危険を冒した——助けを必要としている弱者を救うために」

イレナ・センドレル（旧姓クシジャノフスカ）は、1910年にワルシャワ近郊のオトフォックで生まれました。父は医師でした。第二次世界大戦でナチス・ドイツの占領が始まると、彼女は抵抗運動に加わり、ワルシャワ・ゲットーが作られる前から、ユダヤ系の同胞を援助する活動を行っていました。1942年にポーランドの地下組織「ユダヤ人救済委員会【ジエゴタ Żegota】」が結成されると、子ども救済部長になりました。

戦後、彼女は社会活動家になりました。

1965年にイスラエルのヤド・ヴァシェム研究所により、「諸民族の中の正義の人」メダルを授与されました。

2003年には、ポーランド共和国最高位の「白鷺勲章」を授かりました。2007年には、子どもたちの請願により、微笑み勲章を受けました。2006年には、レフ・カチンスキ大統領が、彼女をノーベル平和賞候補として推薦しました。

イレナ・センドレルは2008年5月12日に死去しました。亡くなるまで、「自分にはもっと多くのことができたはずだったのに」と言っていたそうです。